

秋季

08
総合特集Ⅱ

大正紡績

人・地球に優しいモノ作り



手摘み綿花にこだわる大正紡績のオーガニックコットン

ブームが続くオーガニックコットンだが、その代名詞的存在が大正紡績である。早くからオーガニックコットンを中心とし、環境に優しく、人を幸せにするモノ作りを進めてきた同社。今年には「毎日ファッショングッド」を受賞し、その知名度はコンシューマー

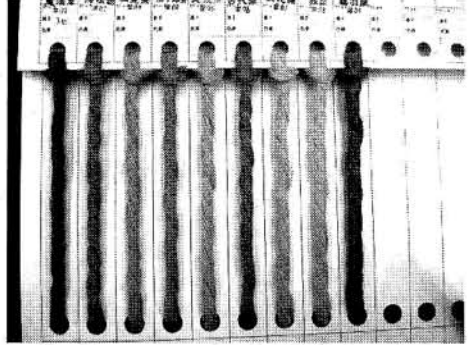
にまで広がりがつつある。一方で野田社長は、現在野田和之社長は「川中・川下企業との取り組み型ビジネスを進めたこと」と話す。ただ単純にオーガニック綿糸を紡績し販売するのではなく、素材開発の過程で必ずデザイナーやアパレルなど川下企業の企画とマッチさせたいと、そこに協力関係にある機業・ニック・染工場などを組み込むことにより強力なプロダクトチームを構築していることである。その象徴が、今年4月の「JFWジャパ

コットン」だけでなく、オーガニックコットンだけで今年4月の「JFWジャパコットン」展に「大正紡績工房」として連携する川中企業・アパレル4社と共同出展した。そして、現在同社が生産する糸の35%をオーガニック関連で占めるまで、ハニ染め（彩土染め）、ベンガラ染めによる色糸を販売しているが、今期から

新たに天然染料によるトップ染め系「洛陽染」を開発した。京都の染工場、染料メーカー、そして京都市産業技術研究所繊維技術センターと共同開発したものだ。天然染料の弱点である染色堅牢度も耐光堅牢度も3〜4級をクリアする。現在、「憲法黒」「海松色」「瑠璃茶」「団十郎茶」「芝翫茶」「古代紫」「桃花」「桜鼠」「鳩羽鼠」の9色展開。採用に動くアパレルが欧州輸出を志向して

オーガニック+α推進 取組型ビジネス強みに

「ロジエクト」などである。このほど新たにカンボジアのコンチン島で綿花の有機栽培を行い、現地の雇用創出と綿花農業復活を支援するNGO「ネイチャー・セーブ・カンボジア」のプロジェクトにも協力することになった。すでに綿花畑が作られており、今季は4トンの綿花を収穫し、来季は耕地面積を25%に拡大し、収穫した綿花を大正紡績が購入し、オリジナル綿糸として販売する予定だ。



天然染料染色が魅力の「洛陽染」

「価値」を持たせた素材開発にコロンチン島には4社の協力を、ウガンダ共和国に井戸を掘る国際支援を続けているNGO団体「ハンガー・フリー・ワールド」を向上させていく。